
苦い泥

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

苦い泥

【Nコード】

N3772B

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

白濁した湖の周りに集まった子供達のその狂気。それを傍観する僕の狂気。

星屑の欠片を拾い集めよう、空を見なくて良いように。

ストの街の子供たちは、その白濁色の湖の中に、金色の魚を探した。

僕も、そのある一種の昂揚の中で、夢中になって眼球を廻らした。四、五人で集まって探す者もあれば、一人で熱病にでも冒されたように湖に両足を突っ込む者もいた。

その手は水を掻いても、魚の尾びれに触れる事は無い。

僕は、早々に諦めて、濡れてしまった腕や靴を乾かして傍観を決め込んだ。

小高い岩に腰掛けて、そこからは全てが見渡せた。

そのうち、ある集団が、あった、あったと舌足らずの口調で騒ぎ出したので、周囲の子供たちが一気に注目した。

それは、工場長の娘で、名前はなかった。僕達は、その工場長の娘が、ひどく嘔吐きなことを知っていたし、そのもったいぶったブーツの持ち方が気に入らなかった。

どうせ嘘なんだろう、と誰かが言った。

それで体の大きな奴が、無理矢理に見ようと娘のブーツに手を掛けた。

しかし、その工場長の娘が凄じい剣幕で喚き散らした。

その勢いに乗じて、そのブーツを奪おうとした他の子供も群がった。

いくら浅い湖ではあったが、子供たちの腰の辺りまで、水位はあった。

我先にと、他の子供を押し分けながら、ブーツだけでなく、お互いの服やズボンや履物まで奪う始末だった。

金の魚の事なんて如何でもよくなった子供たちは、とにかく出来

る限りの物を略奪しあつた。

背の高い男の子も、太った女の子も、体の小さい子供でも、恐れなどはないようだった。

傍観していた僕も、盛んに煽り立てた。さながら、餌に群がるハイエナか、カモメのようだと僕は思った。

そもそも誰が、湖に金の魚が落ちてきたなどと言つたのだろう。

ストの街の子供たちは、持てる限りの力を使い果たし、ある者は一糸纏わずに、ある者は、履物ばかりを手に入れた。また、混乱の中で蹴られたり踏まれたりした者が膝をついていた。

一様に虚ろな目をした子供たちは、それぞれの戦利品を引きずるように岸に上がり、街の方に歩き始めた。

工場長の娘だけは、いつまでもだらりと口を開けたまま湖に浮かんでいた。

僕は急におかしさが込み上げてくるのを感じた。

いったい『誰が』金の魚などと言つたのか。

僕はもう、笑い声を抑えることを止めていた。

だって奴らときたら、誰も空など見ようとしなのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3772b/>

苦い泥

2010年11月3日02時29分発行